

アドバイザー派遣事業 実施レポート

西部学びの会
代表 狩野 実

1. 研修テーマ 学校全体で取り組む「学び合い」への授業改善
2. 研修日 平成28年6月23日（木）
3. アドバイザー 杉江修治 教授（中京大学）

4. 研修のまとめ

昨年度の研究では、杉江先生から以下のような改善点を指摘された。

- ・子どもがより伸びるために小中連携（考え方の一致）は必要。
- ・生き生きとした学級づくりだけしてはダメ。高め合わなければ（仲良しはダメ）。
- ・授業中に「先生・・・」と呼ばせるのをゼロにする。
- ・聴き取ろうとする。聴く構えをしっかり作る。
- ・作業の指示ではない。ねらいを伝える。指示の仕方も教材研究である。
- ・授業中の子どもの自律を促す。授業中の子どもへの声掛けは最小限に。
- ・学び合う姿はもっと高いものをもとめてもよい。
- ・現状で満足させない。「よかったけど、何か足りないものなかったかな？」
- ・生徒はワークシートに簡単な理由を書いていたが、しっかり書くように。
- ・発表をする子と発表を聴く子への言葉かけを。（×発表してください ○伝えてください）
- ・興味深いと思った言葉はメモしながら聴きなさい。等指示を。

これらの反省をもとに、今回は、以下の視点で研究会を行った。

視点1 生徒が主体的に活動できる仕組みはあるか。

視点2 高め合える仕掛けが行われているか。

事後の研究会では、上記2つの視点を中心に、付箋を使った2グループによる討議で①工夫・良かった点、②手立て・改善が必要な点について話し合った。その後、発表することで内容を共有した。各グループの内容をまとめると以下の内容である。

①工夫・良かった点、さらに伸ばしたいこと	②手立て・改善が必要なこと
<ul style="list-style-type: none">○課題設定がシンプルで、内容も興味を持つものであった。○ジグソー法を使うなど一人ひとりの役割分担を意識した工夫があった。○生徒はフルに頭を働かせていた。○教員に頼らず、自分達だけで解決しようとする姿が見られた。○班で1つのボードを使用。みんなが頭を寄せて話し合っていた。○学力的なバランスを考えた班編成。○レベルの高い課題設定。	<ul style="list-style-type: none">○課題レベルが高い。目標達成した生徒はどれくらいいただろうか。○事前の指示が不十分。活動が始まってからの過度な助言。○振り返りが不十分。

研究協議では、杉江先生から、前回より確実に前に進んでいると評価していただいた。具体的には、①授業目標を高く設定し、やりごたえのある課題設定ができていること。②子どもの学びの時

間をしっかりと確保できていたこと。③高め合いの雰囲気子ども間にできていること。④本時の流れが明確に書かれていること、など。一方で、1年生は協同的な取り組みがまだできておらず、授業に集中できていない様子が見られる。協同学習は学級経営と深く関わるので、個人差はあるが、他の生徒が関わり認め合える経験と、一人一人がわかりたいと思える授業を続けることが大切と指導をいただいた。その後、授業参観された教員一人一人に詳しく具体的な指導をいただけた。